

山ぼうし

第46号 平成21年 1月30日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



子 育 て 四 訓

子育て四訓

- 一、乳児はしっかり肌を離すな
- 一、幼児は肌を離せ手を離すな
- 一、少年は手を離せ目を離すな
- 一、青年は目を離せ心を離すな

「子育て四訓」は、山口県下に住む教育者のA氏が、長年の教育経験を踏まえてまとめたものである。問題行動の背景に愛情不足や親子の分離不安があり、いわゆる、親や社会に対する「甘え」がある。しかし、そうした子供達に「甘えるな」と言ってみても、そうせざるを得ない過程を経てきている。親としても教師としても社会としても、そこに目を向けることが必要であり、「親子の関係を直す必要がある」との思いが募る。

■「乳児はしっかり肌を離すな」

人間は、他のほ乳類と違って、生まれて一年間はほとんど受け身の状態である。二足歩行ができるまでは、「母親の胸は子宮の延長」であり、しっかりと抱かれることによって、赤ちゃんは「守られている」「かわいがられている」と無意識のうちに感じ信頼し安心するのである。それが、愛情や信頼、情緒的安定、他人を思いやる心など、人間形成の基盤になる。

■「幼児は肌を離せ手を離すな」

幼児は乳離れをするが、一気に離すのではなく、常に親がそばにすることで、「心配しなくても良いよ」という安心感を与えることが大切だ。ちょっと周囲への関心やいろいろなものに目が向いていき、自立させるための第一段階だ。自立に目覚める幼児期は、完全な

校長 兼 平 栄 補

保護から社会に向けて一步踏み出す時期といえる。

■「少年は手を離せ目を離すな」

少年は、友達との付き合いによって社会性が育つ時なので、ここではしっかり手を離して、活動範囲を広げてやらないといけない。ただし、いろんな危険があるので、目を離してはいけない。この時期、子供が親に反抗したり、非行や問題行動に走ったり、いろんなことで苦しい思いをするかもしれない。しかし、それは成長の過程である。親として逃げずに、子供に向き合って、共に成長することを心掛けるべきだ。子供の荒れの背景には、親や友人に「こちらを向いて欲しい」というメッセージであることが多いのである。

■「青年は目を離せ心を離すな」

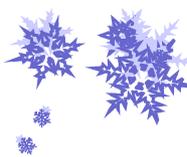
青年期にまでなると、完全に自立していくために、自分なりの生き甲斐、進路を歩んでいく時であるが、気持ちの上では、心を離してはいけないということである。いずれにしても、子育ての最終的な責任は親にあるという基本を忘れてはならないのである。

もちろん子育ては「四訓」の言葉だけで、言い尽くせるものではない。

しかし、自分の子育てを振り返る、あるいは自信を持つヒントにしてほしい。

2・3月行事予定

2月 2日 (月) ~ 4日 (水)	3年定期試験
4日 (水)	いきいき宮工事業報告会
5日 (木)	保護者進路説明会
12日 (木) ~ 17日 (火)	1・2年定期試験
20日 (金)	3年出校日、大掃除
27日 (金)	卒業式予行
3月 1日 (日)	卒業式 (3月2日代休)



本年度3年生の進路状況

9月以降の世界不況に伴い、全国規模での製造業の急激な減産、そして人員削減が行われ、非正規労働者だけでなく正社員のリストラや新卒者の内定取り消しまで出てきております。このような状況の中で、本校の進路状況は昨年の12月20日付けで就職希望者全員の進路先が決定しました。

各企業とも厳しいという話は聞いておりますが、現在のところ本校では内定取り消しはありません。

進学希望者についてもほとんどの生徒が希望どおりの学校に合格し、残すところ一般受験の生徒だけとなりました。

就職・進学とも良好な結果が出たことは、経済状況や雇用情勢が悪化する前に生徒たちが積極的に求職活動に取り組んだこと、担任の先生方の生徒への働きかけが早かったこと、そして

宮古市産業支援センターのコーディネーターである伊藤恒夫氏の学校と企業との橋渡しなど多大なるご支援を頂いた結果だと思っております。

3年生の生徒たちには、自分の努力はもとより多くの方々の援助があって進路が決定しているのだということを忘れないで感謝の気持ちを持って卒業してほしいと思っております。

(進路指導部)

	機械科	電気電子科	建築設備科	合計
管内	12	9	11	32
県内	3	5	1	9
県外	11	14	9	34
公務員	1			1
その他	2	2		4
合計	29	30	21	80
大学		2	1	3
短大	1			1
専門学校	5	3	7	15
各種学校	2	2		4
合計	8	7	8	23

岩手県工業系高等学校生徒会連絡協議会冬季総会

1月23日(火)から二日間の日程で、金ヶ崎町の県南青少年の家で「岩手県工業系高等学校生徒会連絡協議会」(工生連)が行われました。工生連は、夏と冬の二回、県内の工業系の学科のある学校の生徒会執行部が集まり、分科会に分かれて議題のテーマについて各学校が話し合い、最後に全体の前で発表したり、またレクリエーションを通して学校同士の交流を深める場となっています。本校からは生徒会執行部3名と応援委員長1名、計4名が参加しました。

今回の分科会は、「①各学校の応援活動」「②いじめ」「③生徒会執行部で行っている活動」、以上3つのテーマについてそれぞれに分かれ話し合いました。「①各学校の応援活動」の分科会では、各学校の応援団長が集まり、各校の応援活動の実態や問題・悩み・不満を出し合い、今後どう取組んでいくか等話し合いました。「②いじめ」の分科会では、各校のいじめに対して生徒会での取組みや解決策を話し合い、最後は各校模造紙にまとめて発表を行いました。「③生徒会執行部で行っている活動」では、各校がどんな活動をしているのかわかることができ、ボランティア活動や省エネ対策を積極的に行っている学校もあり、本校でも取り組んでいかなければならないと感じました。



レクリエーションはスケートを行いました。1回は滑ったことがある本校の生徒も、慣れるまではフラフラして大変でしたが、馴れると自力で1周できていました。また、同じ部屋の他校の生徒と楽しく滑っている生徒もいました。

今回の工生連は参加した生徒たちが学び得たことはたくさんあったと思います。今後の宮古工業の生徒会活動に生かしていけるよう、生徒会執行部・応援委員がリーダーシップをとり、より活気ある「宮古工業」を創っていけるよう頑張っていってほしいと思います。